

**製品名: ラミニン  $\beta$ 1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86487**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:198 kDa; Observed MW:240 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Laminin beta 1
別名	CLM; LIS5
遺伝子 ID	3912
SwissProt ID	P07942
免疫原	ヒトラミニン $\beta$ 1 の合成ペプチド

**背景**

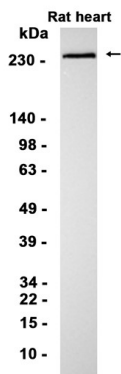
ラミニンは細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、遊

走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。ラミニンは、ラミニン  $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  (以前はそれぞれ A、B1、B2 と呼ばれていました) という 3 つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖からなる 3 本の短腕と、3 本すべての鎖からなる長腕からなる十字形構造を形成します。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なるアルファ、ベータ、ガンマ鎖異性体が組み合わさって、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらは発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、アルファ 1 ベータ 1 ガンマ 1 ヘテロ三量体はラミニン 1 です。異なる鎖と三量体分子の生物学的機能はほとんどわかりませんが、一部の鎖は組織分布に関して異なることが示されており、おそらく生体内での多様な機能を反映しています。この遺伝子は、ベータ鎖アイソフォーム ラミニン、ベータ 1 をコードします。ベータ 1 鎖には、他のベータ鎖異性体と共有する 7 つの構造的に異なるドメインがあります。ドメイン I と II を含む C 末端ヘリカル領域はドメイン アルファによって分離され、ドメイン III と V にはいくつかの EGF 様リピートが含まれ、ドメイン IV と VI は球状の構造を持っています。ラミニン  $\beta 1$  は、基底膜を形成するほとんどの組織で発現しており、ラミニン 1 を構成する 3 つの鎖の 1 つです。ラミニン 1 は、エンゲルブレス・ホルム・スウォーム (EHS) 腫瘍から最初に単離されたラミニンです。細胞接着、走化性、およびラミニン受容体への結合に関与する  $\beta 1$  鎖の配列が同定され、転移阻害能を有することが示されました。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



ラミニン ベータ 1 ウサギ モノクローナル抗体を 1:1000 で使用してラットの心臓組織抽出物をウェスタン プロット分析しました。